

滝沢ダムの防災操作※¹について ～局地的な降雨において河川水位の上昇を低減～

独立行政法人水資源機構荒川ダム総合管理所が管理する滝沢ダムの流域では、局地的な降雨の影響で、9月7日（水）から8日（木）までの間に、総雨量98mm※²の降雨を記録しました。

この降雨により滝沢ダムでは、最大流入量毎秒約146立方メートルの時に、約90%に相当する毎秒約130立方メートルの水をダムに貯留し、合計で約149万立方メートル※³を一時的にダムに貯留することで、ダム下流の河川水位の上昇を抑える防災操作を行いました。

この操作により、ダム下流約3kmにある中津川の太平橋（秩父市大滝（おたき））地点において、ダムが無い場合と比べ河川水位を推定で約1.9m低減できました。

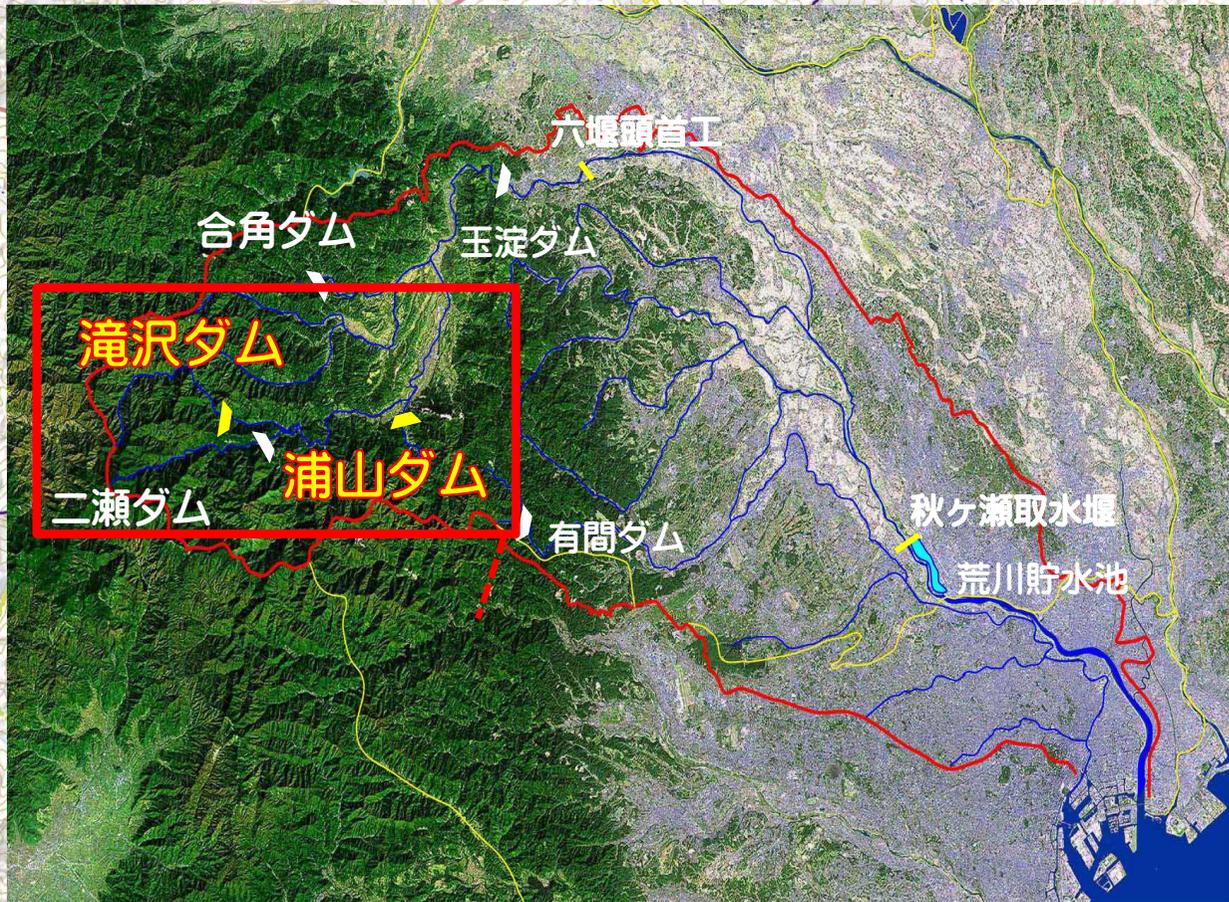
なお、今回の発表は速報値であり、数値等は今後の調査により変わることがあります。

※¹ 防災操作とは、大雨の際にダムに流れ込む水の一部を一時的にダムに貯め込むことで、ダム下流に流す水の量を減らし、下流河川の水位を低減させる操作

※² 総雨量は7日16時から8日8時までの値

※³ ダムへの貯め込み量は7日16時から8日7時までの値

位置図

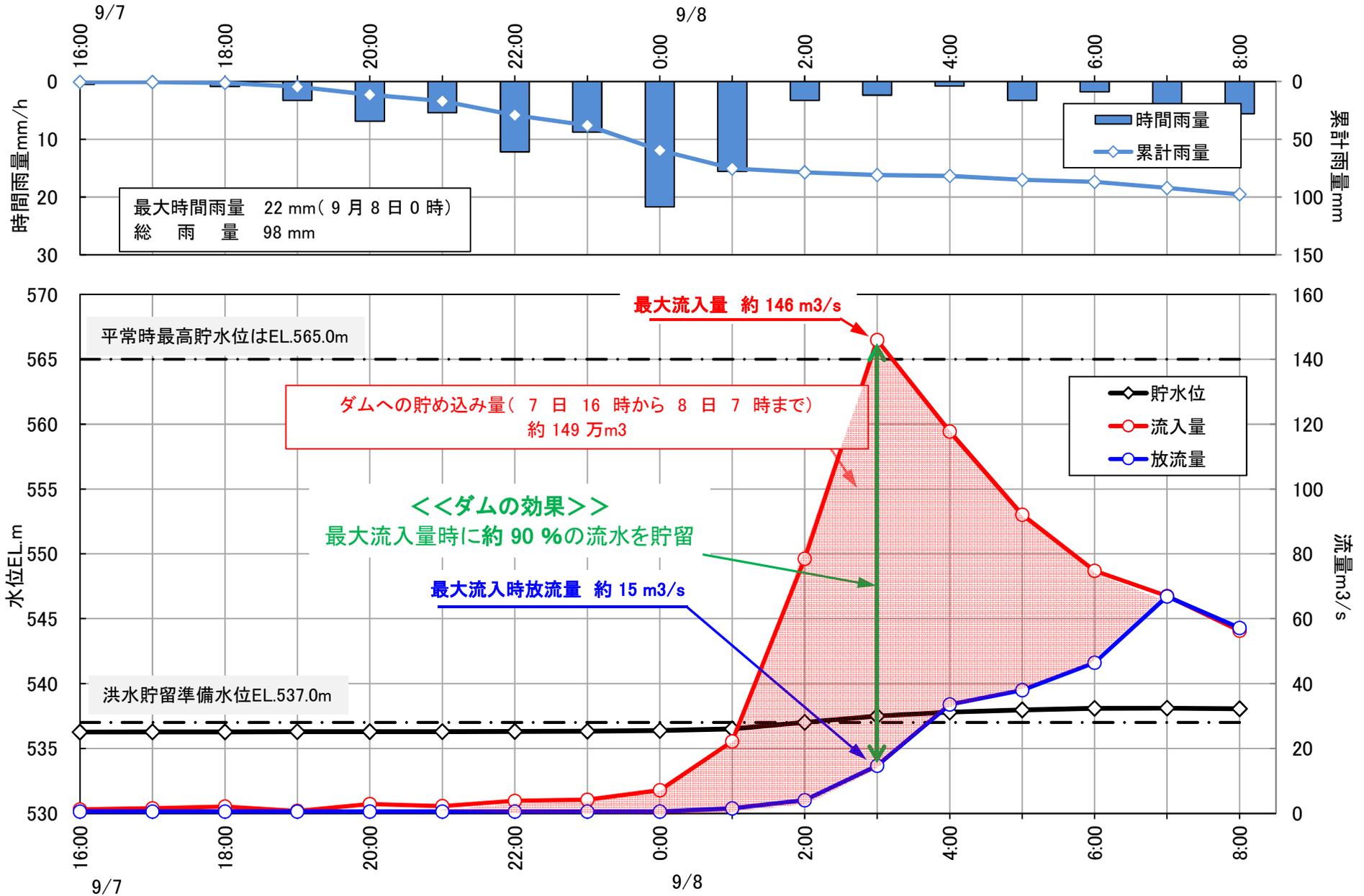


資料 1



「国土地理院地図(電子国土Web)にダム名を追記して掲載」

■ 滝沢ダム防災操作図(令和4年9月7日～9月8日 局地的降雨)



※本データは速報値のため、今後変更する場合があります。(グラフのデータは1時間毎の値を示しており、分単位のデータは反映していません。)

防災操作によるダム下流河川水位低減効果

中津川太平橋地点（資料 1 参照）

- ① ダムがなかった場合、推定で**最高水位約 3.0 m**まで上昇見込み。
- ② 滝沢ダムの防災操作により、**最高水位 1.1 m**に抑えることができた。

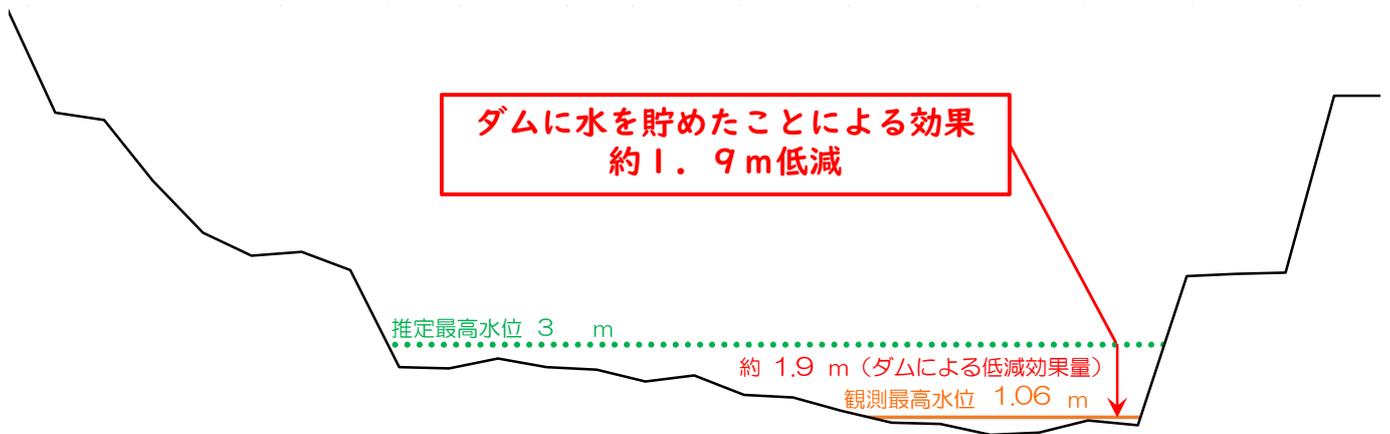
防災操作によるダム下流河川水位低減効果

- ①－②＝約 3.0 m－1.1 m＝**約 1.9 m 低減**

左岸

右岸

太平橋地点（河川断面図）（イメージ図）



太平橋地点現地写真（令和 4 年 4 月 7 日 14 時撮影）

